

## ごあいさつ

鹿児島県森林技術総合センターは、試験研究部門と普及指導部門の連携・強化を図るため、本庁に配置されていた林業専門普及指導員を旧林業試験場に集合配置して、平成19年4月に設立されました。

当センターは、森林・林業に関する新たな施策課題や森林所有者等のニーズに対応した技術開発を行い、その成果を迅速かつ的確に普及定着させることを目的に業務を行っております。

また、隣接する県林業労働力確保支援センター(森の研修館かごしま)と連携して、林業後継者等の人材育成にも努めております。

平成29年度は、試験研究部門において10課題の試験研究を行いました。

主な試験研究の成果としましては、「再造林の省力化に関する研究」において、苗木運搬・植え付け時の労働強度軽減に向けたコンテナ苗の規格の検討を行うとともに、軽量コンテナ苗の活着率等の性能を明らかにしました。また、植栽時期を中心としたコンテナ苗と普通苗の使用基準を示したところです。

なお、研究成果等につきましては、普及指導部と連携して幅広く関係者に周知してまいりたいと考えております。

普及指導部門におきましては、森林・林業の再生に向けて、森林施業の集約化や作業路の作設指導、路網と高性能林業機械を組み合わせた効率的な作業システムの普及に取り組むとともに、フォレスターや森林施業プランナーの育成、しいたけ・たけのこ・枝物生産者養成講座等による林業後継者の育成等に努めました。また、再造林推進のための情報共有を進めるなど、循環型林業の確立に向けた取組も行っているところです。

今年度は、優良苗木の安定供給体制構築に向けた「スギコンテナ苗量産技術の開発」等、再造林の推進を図るための研究や、枝物・たけのこ等特用林産物の研究を進めるなど、引き続き各種施策の動向を踏まえつつ、現場に即応した技術開発と成果の普及啓発、新規就業者等の人材育成に取り組み、本県森林・林業の振興に努めることとしております。

平成30年4月

森林技術総合センター所長 増永 英樹